

1月30日1本の電話が入りました。「実は160年前の横浜居留地や江戸の市街、鎌倉大仏などを収めた写真アルバムが里帰りし、明日、横浜開港資料館で記者発表があります、ぜひ同席してください。」とのことでした。ご連絡の主は洋菓子店「モンテローザ」などを営む三陽物産社長の山本博士氏で、私共の横浜市民ミュージカルの応援・協賛者でもあります。翌日の開港資料館・講堂には、マスコミ関係者が大勢集まっています。ベアトは幕末から明治初期、横浜にスタジオを構え活躍した最も有名な写真家です。彼が撮影した1863年までの写真を集めた今回のアルバムは非常に貴重だと資料館の職員の方が紹介していました。今回の38点の写真とワーグマンの水彩画2枚は開港資料館に寄託されますが、それに伴い三陽物産と歴史財団は「横浜の歴史文化」により積極的に連携して事業を進めていくため、当日協定を結ぶ発表がありました。

山本氏は現在55歳。こどもの頃から埴輪が大好きだったそうです。やがて本町小学校に入り、先生から馬車道にガス灯の明かりをともした会社の跡に学校が建っていることを聞いて、横浜の歴史に親しみを感じ誇りに思ったという。その浜っこ少年は、ずっと埋もれている地元のお宝に興味を持ち続けてきたのです。横浜市が近代都市として発展する過程で地域に残る歴史的な財産が発掘される情報に関心をもち、その調査と保存に多くの時間と経済的なサポートを続けています。

明治維新後の横浜（現在の南区庚台）に1000坪の真葛窯を創業した初代宮川香山は、「高浮彫」という今までにはなかった超越技巧で世界を驚愕させました。その作品は海外で高く評価され、エミール・ガレ工房やロイヤルコペンハーゲンにも影響を与えたとされています。真葛焼は昭和20年（1945年）の横浜大空襲で工房が壊滅的被害を受け、同時に3代目香山も亡くなり真葛焼は消滅し、幻のやきものと呼ばれてきました。その世界に愛されるあこがれの陶磁器を横浜に呼び戻そうと山本氏は精力的に各国を廻って一点一点と作品を収集し、2010年に「宮川香山 真葛ミュージアム」をヨコハマポートサイド地区に開館されたのです。

その他に幕末に勝海舟が設計し築造された神奈川台場（祝砲などを鳴らすところ）の遺構を保全し、明治時代に輸入され山下居留地で販売されたリードオルガンを修復し、コンサートを催したり、取壊しの危機に直面していた戦前の西洋館「山手133番館」を取得し、保全活用されましたが、令和2年に「横浜市歴史的建造物」に認定され、また、山手133番館の積擁壁は令和4年に西洋館同様の横浜市の認定がありました。こうして山本氏の様々な活動は丁寧にも現在も続いています。

横浜市民ミュージカルでも幕末の横浜が舞台となることが多いのですが、「空飛ぶ絵師の贈り物」には、前述のベアトと同じ時代に野毛く弁天通りく馬車道と移転し日本初の写真館を開設した下岡蓮杖



160年前のベアトのアルバム里帰り！  
1月31日(水)記者発表風景 会場:開港資料館



詳細は今後のスケジュールをご覧ください。

## 第37期 赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会 & 高木東六生誕120周年記念コンサート

開催日：7月7日(日) 14:00開演  
会場：杉田劇場／全員ご招待！  
観覧ご希望の方は事前申し込みが必要です。  
お申込みは上記赤い靴事務局まで

### 今後のスケジュール 2024年

★3/7(木) 16:00～ 「中区自治会町内会感謝会」 場所：ロイヤルホール・ヨコハマ 内容：横浜市歌斉唱 出演：横浜ローゼス
★5月5日(日) 「こどもの日コンサート2024」 ～オーケストラの魔法で冒険へ！～ 場所：横浜みなとみらいホール 大ホール 時間：①13:00開演 ②15:30開演 出演：神奈フィル、赤い靴ジュニア コーラス、横浜少年少女合唱団 料金：4歳～高校生 1,500円 一般 2,500円(団体割引 2,250円)
★5/19(日) 横浜市民ミュージカル「象の鼻のミケ2024」 場所：紅葉坂ホール 時間：①12:00 ②16:00 料金：一般前売り 2,800円 当日 3,000円 小学生以下 1,500円
★7/7(日) 午後 「第37期 赤い靴ジュニアコーラス 定期演奏会 & 高木東六生誕120周年 記念コンサート」 場所：杉田劇場 出演：赤い靴ジュニアコーラス、ザ・シヴ クチャーズ横浜、横浜★男声合唱団、 料金：無料 詳細後日
★7/28(日) 「第18回中区ダンスフェスティバル2024」 場所：関内ホール 大ホール ※詳細は後日

が登場します。また、横濱ガス灯物語「キリシタンの魔法」では主人公の高島嘉右衛門が明治5年に横濱にガス会社を設立し、魔法のような明かりが日本で初めて灯ったのです。その他、近代都市横浜の原点となる吉田新田を開発した吉田勘兵衛が背景のミュージカル「おさん伝説」や、横濱ビール発祥の物語ではコープランドさんが登場したり、本当に演出家の福島先生が言われるように正に「ドラマが眠る横浜」ですね。

さて、5月公演の「象の鼻のミケ」の中に、高く売れるオスの三毛猫の競り市のシーンが出てくるのですが、私の原作から取り上げてくださるとのことを楽しみにしています。かつて横浜☆男声合唱団の岩永さんが帳場の役で名演技をされていましたので懐かしく思います。

本物の競り市はミュージカルが始まるずっと前になりますが、「横浜美術倶楽部」を立ち上げ、主宰していました。第1回目はシルク博物館のホールで開催し、かのサザビーズやクリスティーズのように自らオークションを務めました。口上が面白いと評判となり、毎回賑わいのある催しになりました。未だ未だ各家庭に埋もれている歴史的な物があり、大事にしてくれる次の方に渡すことはよい方法と会員登録制にしたのです。日本で初めての堤石齋の型が出品されたり、輸出のお茶のラベル、ジェラール瓦、横濱版画、国内外の陶磁器、絵画などいろいろと出てくるのですが、何番の会員が落札されたか、記録されるので私は分散資料館と呼んでいました。この様子がNHKで放映されたり、美術雑誌に載ったり、皆さんも喜んで下さるので毎回の出会いが楽しい会でした。ある時、「赤い靴はいてた女の子像」のミニチュア版が出品されました。山下公園の女の子像を建てる前に、今で言うクラウドファンディングにあたると思います。1万円の寄付を頂いた方にお礼としてお贈りした999体のうちの1体でした。なんと10万円で落札されたのです。やがて、横浜市民ミュージカルが始まる頃にはオークションの火は消すことになりました。今度は舞台でご覧ください。

令和6年3月15日発行(令和6年1月31日&2月31日付)  
※2か月分一緒の赤い靴通信です。  
団長 松永春